

司式:中川 信明  
奏楽:吉田千鶴子

前奏:「ああ主よ、憐れな罪人われを」(J.L.クレープス)

招詞:これは主の御業、わたしたちの目には驚くべきこと。今日こそ主の御業の日。今日を喜び祝い、喜び躍ろう。(詩 118:23-24)

讃美歌:16「われらの主こそは」

罪の告白・赦し

聖霊を求める祈り

朗読聖書①箴言 23:1-8

- 01 支配者と共に食卓に着いたなら/何に直面しているのかをよく理解せよ。
- 02 あなたが食欲おうせいな人間なら/自分の喉にナイフを突きつけたも同じだ。
- 03 供される珍味をむさぼるな、それは欺きのパンだ。
- 04 富を得ようとして労するな/分別をもって、やめておくがよい。
- 05 目をそらすや否や、富は消え去る。驚のように翼を生やして、天に飛び去る。
- 06 強欲な者のパンを食べようとするな。供される珍味をむさぼるな。
- 07 彼はその欲望が示すとおり人間だ。「食べるがよい、飲むがよい」と言っても/心はあなたを思っていない。
- 08 あなたは食べたものを吐き出すことになり/あなたが親切に言ったことも台無しになる。

朗読聖書②マタイによる福音書 6:19-24

◆天に富を積みなさい

- 19 「あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。
- 20 富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。
- 21 あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。」

◆体のともし火は目

- 22 「体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るいが、
- 23 濁っていれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある光が消えれば、その暗さはどれほどであろう。」

◆神と富

- 24 「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親んで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」

祈禱

イエス・キリストと私たちの父なる神さま。聖名を賛美します。どうか御国を来たらしてください。

受難節第5主日の朝、あなたは私たち一人ひとりをこの礼拝堂に呼び集め、また、ライブ配信を通して共に礼拝に与るこの恵みを感謝します。

私たちは過ぐる週も、イエス・キリストの十字架のみ苦しみ思いを馳せる日々を過ごしましたが、時にあなたから離れ、多くの罪を犯し、他者を傷つけてきたことを懺悔致します。そして、そのような私たちの罪の贖いのために、イエス・キリストが十字架に架かり、三日目に復活なされたことによって、私たちが罪と死に勝利することができたことに、改めて感謝を致します。

今日もまた、これから佃牧師の口を通して御言葉の説き明かしがなされ、イエス・キリストの福音の指針を豊かに聞く恵みを与えられます。どうか、語る佃牧師に聖霊を豊かに与えてくださり、また、私たちが全身全霊をもって御言葉を受け止めることができますようお導きをお願いします。

また、その後、私たちは聖餐の恵みに共に与ります。私たちがその聖餐を通してイエス・キリストの救いの恵みを豊かに味わうことができますよう、お導きお願い致します。

神さま、教会は新年度の歩みを始めました。特に、新たに担任教師大谷昌恵牧師を私たちの群れに遣わして下さいたことを感謝します。これから私たちが佃牧師、大谷牧師と共に、福音宣教と教会形成の歩みを正しく進んでいくことができますようお導きお願い申し上げます。大谷牧師は病を抱えたまま着任されましたが、あなたが大谷牧師の病を癒し、大谷牧師が存分にお働き頂けますよう、その健康を守りくださいますようお願い申し上げます。

世界の平和のために祈ります。パレスチナ・ガザの地ではイスラエル軍によって停戦合意が破られ、再びガザの人々は戦禍に曝され、多くの命が奪われております。また、ウクライナとロシアの戦闘もなかなか終わらず、多くの子どもたちの命が危険に曝されております。先週はミャンマーで大きな地震があり、多くの人々が家を失い、行方不明の人たちもたくさんおります。どうかこれらの地域が一日も早く平穏な状況を取り戻し、神さまが傷ついた人々に寄り添い、癒してくださいますよう切に祈ります。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原発事故から14年が経過しましたが、今も避難生活を余儀なくされている人々、被災地において生活や健康に不安を感じながら生きざるを得ない人々に、神さまが寄り添い慰めと生きる力を与えてくださいますようお願い致します。私たちの教会が続いているささやかな支援の働きも引き続き導いてくださいますようお願い致します。

私たちは来週には棕櫚の主日礼拝を守り、洗足木曜日の祈祷会、受難日祈祷会を経て再来週には喜びのイースター礼拝と共に迎えます。私たちはこの受難節の道行きの中で、改めてイエス・キリストの十字架と復活の意味を考え、そのかけがえのなさを心に刻むことができますようお導きお願いします。

また、病のため、高齢のため、あるいは仕事や家庭の事情のため、礼拝に出席できない教会の肢々にも等しく神さまの御恵みが豊かにありますようお祈り申し上げます。

この祈りを全国の諸教会、世界の諸教会の祈りと共に尊き主イエス・キリストの聖名を通してお献げ致します。アーメン。

讃美歌:303「丘の上の主の十字架」

説教 「あなたの宝は天に」

佃 雅之

今朝の御言葉は、旧約聖書、新約聖書どちらも、私たちは自分の命をどのようにして守っていくのか、命を守るための真の知恵とは何であるのか語られ、教えられているように思います。

私たちにあって、命を守ることは大切なことはありません。そのためにいろいろなものを蓄えたい、あらゆるものを所有しようとする、自分を守るためにできる限りたくさん蓄えて安心しようとするのが私たちです。

実際に今日まで、いろいろなものを積み上げて生きてきました。経験を積み、キャリアを積み上げる、あるいは、貯金をする、将来のために投資をする、幅広い豊かな人間関係を築き上げる。精神的な面では知恵や教養を積み、宗教的な面では徳を積み、善行を積み、神学を積み。経済的なものでも精神的なものでも、あるいは宗教的なものでも、この地上で獲得して、積み上げて、蓄えて、幸せや人生の充足感を得たい。世代によって求める対象が変わることがあったとしても、“この地上で”貯え積み上げていきたい。どのような人であっても“この地上で”ということは共通しているように思います。

積み上げたものは“私の財産、私だけの宝物”と考えます。しかし、キリストは、「あなたがたは地上に富を積んではならない」と言われています。ここに「富」と訳されています言葉(θησαυρός [宝/冠詞付き単数/宝の箱])は「宝」、あるいは「財産」という言葉です。“あなたの宝物を地上に保管してはならない”と言うのです。キリストはその理由を「(地上では)虫が食ったり、さびびたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする」と教えておられます。この時代の「地上の富」というのは、“金貨と銀貨、衣服、穀物”などであったと言われています。衣服はしみが付き虫に食われる、穀物は腐り、金銀は錆びるし盗難に遭う心配がありますから心は休まることがない。さらに、私たちにとって深刻なことは、“虫が食ったり、錆びびたりする”という言葉は、原文を見ると、虫や錆びによって“見苦しくなる”と書かれていることです。今日読まれた箇所(16節以下)の断食の教えで、“あなたは偽善者のように人に見てもらおうとして顔を見苦しくするな”と言われていたのと同じギリシア語(ἄφραδίᾳ)が使われています。つまり、この地上に富を積もうとする私たちの顔は“見苦しい”と言うことです。地上に積んだ「富(宝)は、他人から見れば“羨ましい、素晴らしい”と言われることもあるかもしれませんが、主の目には“見苦しい”のです。

“人に見てもらおうとするな”ということは、6章のはじめからキリストが一貫して語られてきたことです。“施しをする時、祈るとき、断食するとき、私たち信者は人に見てもらおうとしてはいけない。右の手のすることを、左の手に知らせるはならないほど、さりげなく、人目に付かないように行いなさい。”とキリストは言われていました。隠れたことを見ておられる天の父だけが知っていてくださればいいのです。しかし、地上に富みを蓄えようとするれば、また蓄えたなら、私たちの心は人に向いてしまいます。“認めてほしい、褒めてほしい、さらには崇めて欲しい”、その欲望を止めることは難しくなるのではないのでしょうか。私たちの心は“地上に富を積み上げる、宝を蓄える”ことへの執着に支配されてはいないでしょうか。“できるだけ多くのものを獲得する、手に入れたら、それを握りしめて決して放そうとしない”、地上に積み上げ蓄えた富は、私たちを神から引き離す悪魔的な力を持っていると思います。

今日は旧約聖書から『箴言』を読みました。箴言は聖書に収められた文書の中では『知恵文学』に分類されるものです。箴言という言葉がヘブライ語では「マーシャル(משל)」「諺、譬え話、格言」という意味の言葉です。ある神学者は“箴言という言葉は体のツボに針を刺して病を癒す治療法の「(針灸の)針」という言葉が元になっている」と言っています。箴言にまとめられた言葉は、まさに、“人生のツボに針を差し込むような格言”であるからです。朗読された箇所は、地上に富みを積み、心に心を奪われた強欲な者たちの食卓の様子が書かれています。ここに書かれている“豪華な食事、富、人のもてなし”は、すべてこの世の事柄です。私たちの心を引くものです。しかし、“これら三つの物に

は私たちの心を捉える悪魔が潜んでいる”という教えです。5節に「目をそらすや否や、富は消え去る。鷲のように翼を生やして、天に飛び去る。」とあります。金儲けに命をかける人は愚かな人である。その人は無意味なことに命をかけている。勝ち取れば勝ち取るほど、その人は大切なものを失っている。なぜなら、“地上に蓄えた富は、どれほどたくさん蓄えたとしても、目を逸らした隙に、鷲のように翼を生やして飛んでいってしまうものだ”というのです。地上の富は、決して永続することはないからです。今日のキリストの言葉なら、“地上の富は虫が食ったり錆びびたりするし、盗まれてしまうものである”ということです。

神が示された知恵を知っている者だけが、自分の命を守ることが出来る。所有することに心を奪われる生活に、真の幸は、私たちの命を守る力は決してありません。どれほど地上で富を積んだとしても、地上で得た財産を天の国では所有することができません。裸で母の胎から出て来た私たちは裸で帰ることになるものなのです。

私たち信仰者の持つ人生観・価値観は、この世において私たちが所有しているものはすべて神から一時的に管理を委ねられたものに過ぎないというものです。命もお金も土地も家も財産も、その一切の物が私たち自身のものではなく神から託されたものなのです。けれども、この世に生きている私たちは自分の努力の賜物、自分の力だと勘違いしてしまいます。不確かなものに心を奪われて神との関係を自ら断ち切ってしまう。ここに私たちの愚かさが、“見苦しさ”があるのです。不確かな富を蓄えることに心を奪われると、神を見ることを忘れてしまいます。しかし、地上に積む宝は決して私たちの命を守ってはくれません。ただ一時安心するだけです。だからキリストは「富は、天に積みなさい。」とされています。

「天」とはどこのことでしょうか。キリストが言われる天というのは場所のことではなく、“神に対して”ということであります。キリストは、“富は神に対して積みなさい”と言っておられます。神が求めておられるような自分になること、キリストが語られたことを日々の生活の中で実践して行くこと、それが“天に富を積む”ということです。私たちが決して忘れることなく、神のみを見て生きているなら、私たちが行くことはすべて天に富を積んでいるということになります。

今日の箇所に示されている“どこに富を積むか”というキリストの言葉は、“私たちの目が何を見ているか”という問いであります。そのことに気付かせる為に、キリストは「体のもともし火は目である」と言われています。ここで言われています「目」は「人間全体、人間的人格、心」を表す言葉です。私たちの目がひたむきに神だけを見つめている目であれば、全身も明るい、私という人間全体が明るくなるのです。全身が明るいということは、生活のすべてが人生の歩みの全てが輝き出すということでしょう。

それに反して、私たちの目が神に向けられず、地上の財産の方に惹きつけられてしまったなら、目は濁り、私たちの全身は暗くなります。目が濁るとするのは、“神なき状態になっている”ということです。私たちの中には、聖霊によって主が住んでくださっています。私たちの中にある光とは、神の言葉であり、命の光であるイエス・キリストです。私たちは日々の生活の中でどれくらいイエス・キリストの光を灯すことができているのでしょうか。キリストを見ているなら、キリストに心を向けているなら、全身が明るくなるのです。全身が明るいなら、“あなたはキリストの光を世に放っている”ということです。

キリストは私たちの内におられ、ご自身を表されます。私たちを通して、

その豊かな恵みと祝福を地上に映し出そうとされています。私たちは、そのための器です。確かに、私たちは生きて行く上には、命を守るためには、お金が必要、食べ物が必要、助け合い支え合う人も必要なことだと考えます。しかし、私たちは目に見えるものに心を奪われて、不確かなものに信頼して目を濁らせて、キリストの光を放つという大切な使命を忘れてしまうことがあるのです。

今日は、新年度初めの礼拝を献げています。人間だけでなく、教会という命を守っていくために必要な物もあります。信濃町教会は、この礼拝から101年目の歩みが始まりました。“課題が山積している教会、伝道が困難”と言われている今、私たちは、どのような思いで教会に関わり、教会を支え、福音を前進させようと考えているのでしょうか。私たちはこのことを真剣に祈り問わなければなりません。

しかし、私たちが先ず考えるべき事は、お金や物や人のことであってはならないのです。私たちが主に求められていることは“徹底的に神に仕える”という覚悟を決めることです。今日の箇所の最後に、「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない」とキリストが語られている通りです。ここに使われている「富」という言葉は原文では「マモン(μαμωνᾶς)新約4例-ルカ16:9,11,13-。7ラム語「マモン(מָמוֹן)」という特別な言葉が使われています。マモンは私たち人間をこの世の富の奴隷にしてしまう悪魔的な存在です。この時代、多くの人がマモンの虜になり、主人として崇めていました。もちろん、“私たちはマモンではなく、神に仕えることを選んだ”と確信しています。けれども、日々の生活の中で、“神にではなく、マモンに仕えていることが多い”のではないのでしょうか。“時間があれば、気が向いたら礼拝に行こう”とはなっていないのでしょうか。そのような心は、“神にではなくマモンに仕えている”ことになるでしょう。

教会は“暇人の集まり”では決してありません。礼拝は、日々の労苦と結びついたものなのです。私たちの命を守るための礼拝であります。地上において“悪魔的な力を持つマモンを愛しつつ、神をも愛することができるはずだ”と考える方もいるかも知れません。しかし、それでは必ず、“一方を憎んで他方を愛する”か、“一方に親しんで、他方を軽んじる”ことが起こります。神とマモンの両方を愛し、両方に仕えることはできないことなのです。誰も二人の主人に仕えることはできません。してはならないのではなく、できないことなのです。そのような“二つの心、二心”を断ち切る為には、私たちは日曜日ごとに礼拝を献げる必要があります。

主の日の礼拝を守り、御言葉に聞き、讃美歌を歌う時、私たちの心は自然に主に向かいます。神だけが私たちに必要なことを全てご存知です。私たちが求めるなら、必要なものをすべて与えてくださいます。すべてを神に委ねたなら、神は必ず応えてくださるお方です。求めること以上に祝福し、私たちが豊かに用いてくださいます。私たちににとっての真の宝は、生きておられる私たちの父、イエス・キリスト、聖霊と共に生きる事です。主と共に生きるなら、神の国を待ち望み、天の国へ入ることが約束されている、これほど、幸いなことがあるのでしょうか、このこと以上の命の保証はありません。

私たちはこの新しい年度、共に心を神に向け、主を賛美して歩み出したいと思います。お祈り致します。

聖なる神。この礼拝によって、あなたが真の光を私たちの目に注ぎ込んでくださいましたことを心から感謝致します。私たちに内に宿り、真の光

によって、私たちが一心にあなたを見つめることができますように、聖霊が力を与えてください。そして、決して迷うことなく、富を天に積む者としてください。

主よ、信濃町教会の101年目の歩みを祝福し、これからも、私たちの教会が、主の日の礼拝を固く守り、福音のみが威力を振るう教会として、この地からキリストの福音を大きなものとしていくことが出来ますように。

これから頂きます聖餐の恵みによって、共に十字架のキリストを仰ぎ見て、私たちが地上にあってあなたの恵みを味わい、あなたのご栄光を証しする者としてください。主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:463「わが行くみち」

聖晚餐 使徒信条の告白 和解の挨拶

讃美歌:79「みまえにわれらつどい」

献金・感謝(千住由美子)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

主イエス・キリストの父なる神さま、受難節の中のこの主日、主にある兄弟姉妹、特に大谷昌恵牧師と共に礼拝をお捧げし、聖餐の恵みに与ることができましたことを感謝致します。

佃牧師を通して私たちが生かす本当の命とは何かを改めて教えられました。私たちがこの御言葉を深く受け止め、闇の力の誘惑を退け、主イエス・キリストの十字架によって、確かに与えられた命の道を歩むことができますように、私たち一人ひとりを強めてください。

私たちは神さまから必要な物を与えられております。与えられたものの中から、感謝と献身の徴として、ここにお献げ致します。聖めて御用のためにお用いください。

主が教えてくださいました「主の祈り」を共に祈り、新しい週を始めさせていただきます。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌 90「主よ、来たり、祝したまえ」

派遣と祝福(司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべからず。 会衆:私がお祈りします。私を、お遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。)

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたが一同と共にあるように。アーメン。

報告:(1)新任大谷昌恵牧師紹介、(2)受難節全体祈祷会案内、(3)聖歌隊練習日4/12出 案内。

後奏:「いと愛しまつるイエスよ」(J.ブラームス)